

代表質問

日本共産党



清水みな子

やなぎ美智子

とくたけ純平

廣田 徳子

災害時の

保健医療体制

問 被災後の避難生活の長期化は、避難者にとって精神的負担が大きく、中には健康を害し、持病の悪化や感染症などを引き起こして亡くなる人がいると聞く。このような災害関連死を防ぐために、災害時における長期的な保健医療体制が必要と考えるが、本市の現状及び今後の取り組みを問う。

答 本市では、被災時に保健師などの医療専門職を中心とした保健福祉活動チームを編成し、感染症の拡大を防ぐための状況確認や指

導、避難者の健康観察や運動指導などの活動を実施する予定としている。災害関連死を防ぐためには、市職員だけではなく、多くの医療従事者の協力が不可欠であるため、医師会をはじめとした関係団体との更なる連携の強化を図っていく。

高齢者等への

支援事業

問 はり・きゅう・マッサージ施術費助成事業は、市民の健康保持管理に資することを目的としており、要件を満たすことで、1回の施術に1,000円分の助成券を月2枚、年間24枚まで支給している。現在、世界各国で統合医療の考え方が浸透しており、東洋医学を積極的に取り入れる機運が高まっているため、本事業の助成対象拡大等を行い、本市を統合医療充実都市と



保健師による健康観察（イメージ）

してアピールすべきと考え、令和6年度当初予算では本事業の施術扶助費が減額されている。減額の内容と経緯について問う。

答 本事業は昭和54年から開始され、これまでも社

AEDの

ところである。その後、本市でもようやく6年度よりコンビニエンスストアにAEDが設置されることになったが、設置箇所が増え、利用する市民が設置について認知していなければ、宝の持ち腐れとなってしまうと考える。そこで、本市のAED整備事業につ

いて、新設のAEDも含めた設置場所の周知を今後どのように行っていくのか。

問 AEDを公共施設だけに設置してしまうと、利用できる時間が限られてしまうことから、24時間営業の店舗等への設置を令和5年6月定例会より要望してき

たところである。その後、本市でもようやく6年度よりコンビニエンスストアにAEDが設置されることになったが、設置箇所が増え、利用する市民が設置について認知していなければ、宝の持ち腐れとなってしまうと考える。そこで、本市のAED整備事業につ

いて、新設のAEDも含めた設置場所の周知を今後どのように行っていくのか。

設置箇所を案内している。今後予定しているコンビニエンスストアへの設置についても、これらの掲載情報を更新していくほか、広報いちかわやSNSなどを活用し、情報発信することで改めて市民へ周知を図っていきたいと考えている。

少子化対策

会情勢などに応じて、適時、助成の内容を見直してきた。令和6年度当初予算では、高齢化の進展に伴う、高齢者対象の各種事業利用者数の増加や、高齢者福祉関連事業の新規拡充を踏まえ、本事業についても見直しを図っており、近隣市の状況を考慮した結果、助成額を助成券1枚当たり800円に設定したものである。

問 本市の年間出生数、合計特殊出生率は減少傾向であるとのことだが、少子化が進む原因としては、子どもを産む世代の人口が少ないことや女性の高学歴化による社会進出、非正規雇用の増加による結婚や出産年齢の遅れなど、様々な要因が考えられる。そのため、対策には子育て支援策だけでなく、様々な施策に多面的に取り組む必要があると考えるが、本市では、どの

ように取り組んでいくのか。策を多面的かつ総合的に展開してきた。少子化対策は、代前半の子育て世代の転出超過が顕著であるという特徴があるため、子育て世代の定住促進と出生率向上に向けた具体的な対策を進めるための取り組みを講じることにしており、これまでも様々な分野にわたる施策を引き続き取り組んでいく。

市川維新の会



堀内しんご

沢田あきひと

つかこしたかのり

小児医療体制の

子どもが急病になったときに適切な治療が受けられるのか不安になることがあると考える。そこで、本市における小児慢性特定疾病患者の救急受け入れ体制はど

問 小児慢性特定疾病を抱えている子どもの保護者は、

のようになっているのか。

答 小児慢性特定疾病を抱えている子どもについては、かかりつけの医療機関で治療を受けている場合が多いものと考えられる。急病の際は、かかりつけの医療機関での受診に加え、東京ベイ・浦安市川医療センター、順天堂大学医学部附属浦安病院、東京歯科大学市川総合病院及び行徳総合病院の4力所の病院で2・5次救急医療体制を構築し、小児慢性特定疾病患者も含め、子どもの急病時の受け入れ

を行っている。また、重篤な小児救急患者については、3次救急医療機関に搬送され、治療が行われるが、更に高度な医療が必要な場合は、小児救命救急センターに指定されている東京女子医科大学付属八千代医療センター、小児中核病院に指定されている千葉大学医学部附属病院及び千葉県こども病院で受け入れる体制となっている。このような小児医療体制の整備については、医療法に基づき、県が計画に沿って行っていると

問 大谷翔平選手から寄贈されたグローブの市内各小学校への贈呈式が令和6年1月29日に妙典少年野球場

寄贈グローブの

において行われたところである。その後、各小学校では寄贈されたグローブをどのように活用しているのか。

答 各小学校においては、児童が休み時間やクラブ活動の時間に寄贈されたグローブを実際に着用してキャッチボールをしたり、各学級にグローブを順番に回して児童がグローブの感触を直接体感する機会を設けるなど、それぞれの実情に応じながら活用しているところである。このような機会を通じて、児童がスポーツへの関心を高めることができているものと考えている。



大谷翔平選手から寄贈されたグローブ